**私たちの望み：私たちのものではなく神のもの　12/24/17 ルカ 1:26-38 スティンストラ牧師**

主の天使が突然現れて彼女に話をする恐ろしい瞬間まで、マリアはナザレのこじんまりとした家で快適に、ごく平凡に過ごしていた。しかし、彼女の日常は彼女を囲む栄光の力に強制的に溶け込んでいった。イスラエルの全能なる神は、ロマンチックな若々しいマリアの結婚式の空想に無礼ながらも緊急事態として、彼女の育った環境の中でつちかわれた家族の価値観をやぶって侵入してきた。そのやぶられた価値観とは、結婚前に妊娠などしようもなく、期待もしてはならなかったにもかかわらず、出産に取り組むことだった。

ガブリエルによる神聖な呼びかけがマリアのためになされたことは、アイデンティティの危機をもたらし彼女は日常から大きくはずれてしまい、十代の希望と夢に大混乱を起こした。福音書ではよく出てくる名前で呼ばれているこの女性は、匿名の女子がよくジェーン・ドゥーと呼ばれるようなもので、この女性は特別な女性というわけではなく、そこらにいる女の子だったにちがいない。つまり彼女が目立ちたがり屋などでも誰かから目を引くような女性でもなく、ただ神だけの思いによって彼女が存在していた。彼女は以前、自分に天使が派遣されるなどとは考えたこともなかったことはあきらかであった。そしてなぜこんなことがおこるのかわからずにいた。彼女の謙虚な態度から想像しうることは、他のだれかに起こるような良いことが、彼女の将来にも起ころうとしているかのごとくに考えたようだ。

そして彼女のような成人前の女性が、最高位であるダビデの王座につき油注がれるために生まれる男の子を生むような重要な役をさずかるとは、全く納得のできることではなかった。彼女が以前に耳にしたそのような大役を受ける女性は3〜5年は年上である必要があると思われ、彼女はまったく該当しないのだ。客観的に物事を見る人なら彼女が処女であるためそんな大役は適切ではないと考えるわけで、彼女自身もその考えに強く同意するわけで、そのような責任ある大役を引き受けることには役不足であると感じた 。ところが彼女が天使を目の前にするならば、彼女の頭は真っ白になってしまっていると気づき、子供のときに眠るために歌われた子守唄のひとつの単語すら何も思い出せないような状態になっていることがわかった。そして赤ちゃんを安全におふろに入れることなどできないと告白しなければならなかった。それどころか、彼女が（彼女の能力をはるかに超えていた）テストをパスすることができたとしても、彼女は恐怖で麻痺してしまっているとしか言いようがなかった。彼女は乳母となるにはふさわしくないと考えるにつけ、なぜ神が彼女に救世主のマドンナになるなどと言うのか想像もできないでいた。彼女は、いつかは妊娠と出産のためのストレスを体験してもよい、そして母親になるための準備が整う時期がくるであろうことは否定しなかったが、とても現時点ではそうなるなどとは考えられなかった。すべてが適切な時期に正しい順序で - なければならないのでは？

みなさんもそのように考えてきたのではないだろうか？　神からはこうしなさいと呼びかけられたと感じたにもかかわらず、それがあまりにも悪いタイミングでそんなことはできないと考えたことがあるのでは？　奇跡的な出来事に加わるには、自分が賢明ではないからとか、十分に勇敢ではないからとか、熟練していないとか、そんな年齢に達していないからとか、そんな信仰心はないからなどという理由から、あなたはその呼びかけを疑う気持ちでいっぱいになっていることはないだろうか？　主の呼びかけに応じるボランティアを探そうと神があなたの周りをめぐっているのに、できるだけ目をそらそうとしているのではないだろうか？

そうであれば、イエスの母マリアを見て学んだらよい。あなたは神の呼びかけに驚いて目を丸くするような状態であるかもしれない。しかし全身を捧げて世の光について証しするなんてことはとてもできないと成熟した感性を捨てきれないでいる。そのような状態で神との出会いを経験してその場から立ち去ろうとしたくなる時、どうしたらよいかをマリアから学んだらよい。ぜひもう一度、よき知らせを聞いて欲しい。私たちがここに礼拝する神は、神が必要としていることに対して完璧に準備されているようなだれかを探しているのではない。そうではなくて神は新しいことを試みようとする人、天の課題に立ち向かい、助けを求められた時に「はい、私がしましょう」と言葉を唱える人を求めてる。

その計画は私たちにとって完璧に納得がゆくようなものである必要はない。なぜなら私たちの父が私たちの未来のためにいだいているビジョンは、限られた能力しか持ち得ない人間には完全に分かりようがないからだ。あなたの個人的な希望や夢とはまったく一致しないこともあるだろう。そしてそれはいつも重くのしかかってくるように感じてしまう。しかしそれでよいのだ。神があなたから望んでいるのは、ただあなたがマリヤが言ったことに口をそろえて、「御心が天になるごとく、地でもなるようにしてください。神の栄光に驚かされるだけではなく、私が神の新しい時代を生み出すのに役立つと考えると私は驚きます。あなたの救いの賜物が私を動かすだけでなく、単に私がしもべの役割を果たすことで、あなたの救いの賜物は世界をも動かすことができることに卒倒しそうです。それがどういうことなのか私が理解することはできませんが、あなたの永遠に信頼できる御言葉通りになりますように。」

私はこの福音書箇所は神が人間社会をかき乱し、人間たちでいつも勝手に想定している範囲を壊し続けるということを教えてくれていると思う。私たちを創造した方は、私たちが考え得る狭い範囲を超えて、もっと広々として、豊かで、もっとびっくりするような予測不可能な領域へと導いているので、私たちが狭い領域にとどまってしまってうことなどは望んでいない。皆さんが洗礼の際に受け取った神の呼びかけとは、皆さんがくりかえし聞くように神が意図したものでいつもあなたを緊張させてしまうものだ。なぜなら自分の固定観念や役割分担のようなものを壊してしまうことを要求しており、新たに神の救いの恵みを証明するあなた独自の声を持つよう導いているからだ。不可能なことはないという神を信頼できる僕（しもべ）たちには、神の存在が約束されているので、慣例にとらわれない天の父の計画にしたがって、未来が開けてゆくという希望を確信し、歩んでゆくことができる。　「ここにおります。私は主の僕です」とは、マリアの人生に神が働いていることを体験したときのマリアの答えであり、それは永遠に彼女を変えた。同じ答えがあなたにとっても正しい答えだ。今朝、マリアと声をそろえて同じ言葉を言ってみよう。そして何が起こるか見てみよう！アーメン。